

成熟を目ざして進む

2024年6月23日

ヘブル人への手紙 6・1～8
10・26～27

序：この手紙の受手、読者はユダヤ人クリスチャン
キリスト信仰においては、初心者、幼子、霊的鈍さ、神のことばを復習すべきレベル
彼らは、ローマ帝国（皇帝）からの迫害と同胞ユダヤ教の攻撃の二重苦により苦悩
キリストをメシアと信じつつも、キリストが大祭司という真理を確信できえない
もとのユダヤ教に逆戻り
キリスト信仰を放棄 する危険性・誘惑は大きかった

だからといって、初歩から学びなおせとは言わず、成熟を目ざして進むよう激励

I. 初歩の教えを後にして、前進しよう

①死んだ（死をもたらす）行いからの回心＝律法を行うことによって救われる
義とされる
⇔信仰により、恵みによって救われる

②神に対する信仰
人間や慣れ親しんできた儀式や慣習への信頼ではない

③きよめの洗い、手を置く儀式
||
バプテスマ 按手（任命）

④死者の復活と永遠のさばき（終末論）
信者も不信者も復活する = 永遠のいのち or 永遠の死
天国 地獄

再びやり直す必要はない
神がお許しになるなら、前進しよう（神の御心） by 神への信仰と正しい知識
例：内村鑑三

II. 背教（故意の墮落）への厳しい警告

キリストの救いへの信仰と知識が深まるよう促すにあたって、警鐘

(1)頭ではキリスト教的、しかし心からではなかった人々

- ①福音を聞き、良心を照らされた
- ②神から遣わされた救い主を知らされた
- ③聖霊の助けと導きにあずかった ⇨ 罪の悔い改めと主イエスへの信仰
- ④神のみことばのすばらしさと来たるべき永遠の御国の栄光を部分的に味わった
- ⑤その上で墮落

(2)彼らを悔い改めに立ち返らせることはできない
∴二度と復帰することを望まない

- ★弱さや過失ではなく、よく分かっていながら故意に墮落
- ★神の救いも神のさばきも軽視・無視
- ★救われることの恵みの大きさ、自分の贖いのために費やされた代価の甚大さ、
神は必ず公正公平なさばきをなさることを認めない
- ★イエス・キリストの十字架上の一度だけの究極的な死は、人を救う力がないか
のように、あたかも無力・微力・十分でないとする
- ★神の愛と十分な導きを受けた上で、神の救い、救い主イエス・キリストを拒み、
退ける自分を誇る

ヘブル 10・26～27

もし私たちが、真理の知識を受けた後、進んで罪にとどまり続けるなら、
もはや罪のきよめのためにはいけにえは残されておらず、ただ、さばきと、
逆らう者たちを焼き尽くす激しい火を、恐れながら待つしかありません。

ヨハネⅠ 5・16～17 要約
死に至る罪と死に至らない罪がある

マタイ 12・31～32
…人はどんな罪も冒瀆も赦していただけますが、御霊に対する冒瀆は赦されません。また、人の子に逆らうことばを口にする者でも赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、この世でも次に来る世でも赦されません。

↑
☆聖書をお書かせになった
☆ ” 解き明かしてくださる
☆御子をマリアの胎に宿らせた
☆罪人に罪を示し、悔い改めに導き、イエス・キリストを受け入れるように促す・導く
☆信じた者のうちに住まれる（御国の保証）

ヨハネ 10・28～29 要約
だれも、永遠のいのちを与えられた者を、御子の手からも、御父の手からも奪い去ることはできない

マタイ 13・24～30 要約
毒麦がよい麦とともに収穫の時まであるが、最終的には決着

例：サウル王（旧約） イスカリオテのユダ（新約）
一時的に神の民の中にいても、必ず本性が暴露され、馬脚を現すかきそのの信者

Ⅲ. 二つの土地（心）

(1) 有用な作物を生じる土地
たびたび、降り注ぐ雨を吸い込む（神の恵みを存分に享受する）
耕す者の労に報いる（有用）
神の祝福を受ける

初歩の教えにとどまらず、信仰の成熟と聖書の教理と実践において成長し、
実を結ぶ
霊的低迷や後退から脱出、誘惑に打ち勝ち、試練を乗り越える

(2) 茨やあざみを生えさせる土地
それらが生えるようになったのは人間の墮落後
罪の種が芽生え、はびこり、作物の成長を妨げる
耕す者に無用、無益
神の呪いを受ける
焼き払われてしまう

Ⅳ. 結び

- (1) いつまでも、信仰の初歩のABCにとどまって、安住しないよう
成熟をめざす（キリストにある成人へと） そうすれば、背教から守られる
- (2) 信仰から脱落する原因として、不信者からの攻撃、信仰者からの批判など、外からの要因がある 誘惑に陥り、試練に挫折する
その場合は、祈りによって（主から、聖徒たちからも助けられ）脱出可能
- (3) 信仰から脱落するのは、①信者のように見えながらそうではなかった ②故意に福音を拒否し、主イエスの贖いの効力も聖霊の助けも退けて、救いそのものを否定するからである
- (4) 信仰者は自分の救いを確信し、信仰と知識においてなお成長を期して前進
他の信仰者の救いに関しては、最終的には神の領域であるから、拙束、僭越な判断をもって、さばいてはいけな
- (5) 神のさばきを無視、軽視することは重大な結果をもたらす
神のさばきと同時に神の豊かな報いにも着目して、励んでいこう